

### キホンのキ・ゼミナール「ワクチンと免疫②」

# 「いい加減さ」の素晴らしさ

理事 小川 滋彦（金沢市・内科）

7月11日（火）、金沢大学小児科・谷内江昭宏教授によるキホンのキ・ゼミナール「ワクチンと免疫」の第2回が開催された。新たな受講者も加え、保険医協会会議室が満席になる盛会となった。今回は「予防接種のための免疫学―免疫グロブリンと多様性」と題して、(1)「自己抗体」と(2)「抗体の多様性と可塑性の仕組み」、(3)「赤ちゃんが生き残る仕組み、の大きめに三点をテーマにお話しされた。(1)自己抗体は、自然免疫を司るが、大雑把な構造を認識するというのがポイントの一つ。(2)抗体の多様性は、免疫グロブリンにおいて遺伝子とタンパクが1対1対応では全ての抗体産生を賄えないが、多様性を担保する仕組みによって、10



第2回から初参加の会員も含めて15人が参加し意見交換を行った（7月11日・保険医協会会議室）

長らく「歯科医療界に元気がない」と言われ、以前にもまして歯科衛生士の確保が難しくなっている。問題解決の糸口をつかみたいという思いから、さまざまな歯科医院の活性化を実現している株式会社デンタルタイアップ代表取締役の小原啓子氏をお迎えし「職場のカイゼンが人と組織を成長させる」とのテーマで、7月30日（日）にホテル金沢にて歯科医院活性化セミナーを開催した。歯科参加者は熱心に講演に聞き

入っていた。小原氏は、歯科衛生士の資格を持ち、歯科衛生士学校の指導者という立場である。講演会はず、歯科医



講師の小原啓子氏

## 経営の安定& 活性のヒントに

歯科部 小島 一敏（津幡町・歯科）

### 歯科医院活性化セミナー

当日、谷内江昭宏先生よりご提供いただいた資料は、保険医協会ホームページより閲覧可能です。

▶保険医協会ホームページ

<http://www.ishikawahokeni.jp/>

院は今のままでいいのかわからないという危機感を持たなければいけない」という提言から始まった。日本の人口構成から見る将来予測では、団塊ジュニア世代がリタイアする2035年以降、生産年齢人口は激減し、税収が大きく減少すると言われている（2035年問題）、すでに18歳人口は昭和30年代のピーク時の約半数になっている。これを歯科の現状に置き換えると、新卒の歯科衛生士は10件の歯科医院に1人の割合でしか回ってこないということになる。一方で、現在、全国の歯科医院のなかで経営上の成長が見られるのは20%



SPトランプを使った自己分析も行った

その後、マズローの5段階欲求、フレデリック・テイラーの科学的管理論、フォード社の例などを挙げ、百年近く前から提唱されているマニユアルと「5S」（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の必要性を述べられた。人は覚えたことを、1日経つと74%忘れてしまうことから、新人育成ツールとしてマニユアルは不可欠である。事例として5Sに取り組んだ歯科医院が写真で紹介された。「カイゼン」を行う前の院内は雑然として必要な物がすぐに取り出せない状態であったが、5Sに取り組んだ結果、院内が整然として余分なものが一切なくなり、清潔感のある状態になった。あまりの変貌

程度だといえる。以上のように参加者からは感嘆の声が上がっていた。同様にスタッフルームのあり方も話された。スタッフルームはゆつくりくつろぐ家庭のようなスペースではなく、午後の仕事に取りかかる準備の場であること。そのためには椅子と机が基本で、そこでスタッフは経営・組織論に移った。「経営はお金儲けの話ではない。経営とは組織を存続させること」収益の数字はあくまでも経営の結果であり、いわば歯科医院に対する患者さんからの通信簿である」という言葉は深く心に響いた。



52人が参加し、開催された（7月30日・ホテル金沢）

講演の最後には、参加者全員でSPトランプを使った自己分析を行った。SPトランプとは、性格を4つのタイプ（プロモーター、サポーター、アナライザー、コントローラー）に分類するもので、カードを選ぶことで自分のタイプが分かるというものである。参加者はお互いの分析結果を見せ合いながら、「よく当たっている」「とても面白い」など大いに盛り上がった。この実習では、相手の性格を知ることが効率よくスムーズに仕事を進めるためのコツを学ぶことができた。